

## 令和2年度 第2回岡山支部評議会 議事概要

開催日時：令和2年10月16日（金）14：00～16：15

開催場所：第一セントラルビル2号館8階会議室Earth

出席評議員：浜田評議員（議長）・大塚評議員・國富評議員・高谷評議員・田原評議員・  
中浜評議員・野村評議員・平山評議員

### 議題（1） 令和3年度保険料率について

事務局より資料に沿って説明

《事業主》

令和3年度平均保険料率については保険料率を下げる要素がないため、10%維持が良いのではないかと懸念している。

《事業主》

コロナケースの試算について、どういう前提条件でコロナの影響があると試算しているのか。

（事務局）

令和2年度、3年度についてはリーマンショック時の実績を当てはめて前提としている。賃金についてもリーマンショック時の協会けんぽ実績から将来的に厳しい見通しを立てている。医療給付費については一時的な影響があると想定しているが、2021年以降は通常ケースと比べてあまり変わらない条件を前提としている。

《事業主》

健康保険組合が破綻し協会けんぽに編入された方は、協会けんぽに加入している方と保険料率は同じになるのか。これまで積み上げてきた準備金が減少するのではないかと懸念しているが、どれだけ準備金に影響するか試算はされているのか。

（事務局）

健康保険組合が協会に編入された場合、適用事業所が所在する都道府県の保険料率が適用される。また、健康保険組合の編入前準備金や料率等の財政状況により、協会の財政に与える影響は異なる。

《事業主》

健康保険組合から協会けんぽへ受け入れた時、国からサポートはないのか。

（事務局）

国から医療給付費等の16.4%を国庫補助としていただいている。医療費等が増加すれば国庫補助も増加する。

《事業主》

健康保険組合から協会けんぽへの編入が財政悪化に繋がることはないのか。

(事務局)

過去の協会と健康保険組合との間での事業所の異動の推移によると、健康保険組合から協会へ異動した事業所の平均標準報酬月額が協会から健康保険組合へ異動した事業所の平均標準報酬月額より低いので、その部分の比較では財政にマイナスの影響があると考えられる。

《学識経験者》

医療費がどれ位掛かっているかや年齢によっても変わってくるので、健康保険組合から編入した影響については一概には言えないと思う。

《学識経験者》

準備金が0になったらどういうことになるのか。

(事務局)

法律により医療費等の支払いの1か月分の準備金を積み立てなければならないことになっている。もし準備金がマイナスになった場合は、協会に借入を行い、決められた期間で回収しなければならないため保険料率を引き上げることが必然的に迫ってくる。

《事業主》

これまでも試算に基づき保険料率の議論がされてきていると思うが、試算した状況が正しかったか検証結果はどうか。

(事務局)

令和元年度の決算については、料率設定時の見込みから大きくは変わらなかった。平成29年12月に理事長から中長期的な視点に立って10%維持という方向性が示されてからは、実際に必要な料率は10%を下回っており余剰金の発生を見込んだ決算となっている。

《事業主》

コロナの影響が数字として出てくるのがこれからであると思うので、コロナの影響を議論するにあたりどこまで考慮すればよいのか。これから現時点の前提が変わってくると思うので、何を最大の論点として議論すればよいか分からない。

(事務局)

コロナの影響で医療費がどう変わっていくかについては、ギリギリまで状況を見て試算して欲しいと運営委員会でも意見として出ていたので、本部で最新の情報を基にギリギリまで試算して、平均保険料率の決定や各支部の医療費を算定し、令和3年度の都道府県料率を決定することになると思われる。

## 議題(2) インセンティブ制度の令和元年度評価と支部の取り組みについて

事務局より資料に沿って説明

《学識経験者》

特定健診等実施率の得点が低いのは、被扶養者の受診率が低いためか。

(事務局)

特定健診等の実施率の評価は、特定健診等の受診率だけでなく前年度との伸び率等でも評価され、令和元年度は前年度との比較の部分で得点が低くなっている。ただし、全国的な傾向と同様に、岡山でも被扶養者は4分の1程度しか受診されていない。

《学識経験者》

令和2年度の事業で要治療者に対する健診機関からの受診勧奨について受療率が現状約1割に留まっているとのことであるが、指標4の医療機関への受診勧奨を受けた要治療者の医療機関受診率の得点が高いのは、受診勧奨により受診した方が多いと考えてよいのか。

(事務局)

受診勧奨により実際に受診した方は例年約1割程度である。

《事業主》

今回議論する令和元年度の実績についてはコロナの影響が出始めた3月分のみであるためあまり差が出ないが、令和2年4月以降は差が大きくなるので、令和2年、3年の評価方法がはっきりしていない以上、0.007%で本当に大丈夫か判断できないと思うがどうか。

(事務局)

影響が大きく出ると思われる令和2年度の評価については、今後具体的に検討することになる。今回は令和2年度の評価がはっきりしない状況ではあるが、令和2年3月分の影響について議論していただきたい。

《事業主》

コロナの感染拡大地域とそうでなかった地域はコロナに対する姿勢等、普段からの土壌が異なるため公平性を求めても仕方がないと思う。通常どおり3月までの実績を含めて評価すれば、令和2年度以降も評価方法で悩むことはないのではないかと。

### 議題(3) 令和3年度支部保険者機能強化予算(案)について

事務局より資料に沿って説明

《事業主》

岡山支部はジェネリック医薬品使用割合が低いので、普及のために医療費の抑制や保険料の引き下げに効果がある等具体的に盛り込んだ広報を実施してはどうか。

(事務局)

ご意見を参考に広報していきたい。

《被保険者》

Web広報については実施すべきであると思うが、効果的な対策として評議会で議論するのであれば、検証結果や具体的な広報内容を示してもらいたい。また、業者の選定についても複数業者による入札や見積もり合わせ等の適正な手続きがされているのかも、なんらかの機会で見積もりを明らかにしてもらいたい。

(事務局)

ご意見を参考に評議員の皆様には詳細にご説明する。

《被保険者》

実際に個々の対象者がどの程度利用されたのか結果についても検証してもらいたい。